第２２回（平成２年度）サントリー音楽賞
受賞者は武満　徹氏に決定

毎年わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた日本人に贈る「サントリー音楽賞」の第２２回（平成２年度）受賞者は、武満　徹氏に決定した。

１，平成３年１月１５日（成人の日）午前１０時より東京丸の内の東京會館において、選考委員１３名の出席により第１次選考を行い、『候補者』を選定した。

２，引き続き３月５日（火）午前１０時より、東京紀尾井町のザ・フォーラムにおいて選考委員１３名の出席により最終選考会を開催、慎重な審議の結果、武満　徹氏が選定された。
　そして、同日午後開催の理事会において正式に決定された。

３，武満　徹氏の選考理由は別紙の通り。

４，選考委員は下記の１３氏。

礒山　雅・岩井宏之・小石忠男・菅野浩和・武田明倫
中河原理・丹羽正明・藤田由之・船山　隆・松本勝男
諸井　誠・門馬直美・吉田雅夫
（５０音順）

武満　徹氏（作曲）

〔贈賞理由〕
わが国を代表する国際的作曲家・武満徹氏が生誕６０周年を迎えたのを祝って、昨１９９０年秋にその代表的オーケストラ作品、室内楽作品等が数多く公演され、多くの聴衆の支持を得た。特に、日本初演された「ヴィジョンズ」（１９９０）、「ア・ストリング・アラウンド・オータム」（１９８９）の２作品は最近の円熟した境地を示すとともに新しい音楽表現の可能性に賭ける真に創造的な意思の存在を明らかにする秀作である。また、第１８回目の現代音楽祭「今日の音楽」の開催、サントリーホール開場以来監修者としてたずさわってきた「国際作曲委嘱」＜シリーズ No.１２ ― ロジャー・レイノルズ＞の実現は、困難な状況の中で今日の音楽に必要な社会的認知に向かって着実な成果をあげた。

〔経歴〕

　１９３０年生まれ。１９５０年、ピアノ曲「二つのレント」を発表。５１年、他の作曲家、演奏家、画家、詩人たちとともに「実験工房」を結成。１９５７年、東京交響楽団の委嘱により作曲された、「弦楽のためのレクイエム」はその後欧米各国で演奏され、日本の現代作品の古典的地位を占めるにいたる。６７年、ニューヨーク・フィルハーモニー創立１２５周年記念委嘱作「ノヴェンバー・ステップス」では邦楽器をとりあげ新しい展開をみせた。１９７５年「カトレーン」が尾高賞、芸術祭大賞に選ばれ、また８２年「遠い呼び声の彼方へ！」で２回目の尾高賞を受賞。８４年サントリー音楽財団の委嘱で「オリオンとプレアデス」を、８５年京都信用金庫創立６０周年のために「夢窓」を、８６年サントリーホールの開場のために「ジェモー」、を、８７年メニューインのために「ノスタルジア」を、８８年ロンドン・シンフォニエッタの２０周年のために「並木」を、８９年には今井信子のために「A String around Autumn」を作曲、常に話題作を発表し続けている。現代日本の作曲界で国際的にもっともよく知られている代表的作曲家である。

１９８０年日本芸術院賞を、８１年モービル音楽賞、８５年朝日賞、フランス政府芸術文化勲章、８８年京都音楽賞、９０年国際モーリス・ラヴェル賞、９１年毎日芸術賞を受賞。アメリカ芸術文化アカデミー・インスティテュート名誉会員。

以　　上